岸和田市まちづくり創造研究会
自主研究チーム最終報告書

平成23年2月

岸 和 田 ヤ ラ カ ス 会

岸和田の「地域力＝地車力」ソーシャルキャピタルの輪の拡大の可能性と「新生・岸和田」へのプロセス

岸和田ヤラカス会

はじめに

平成 17 年 4 月よりきしわだ都市政策研究所に参加し、「岸和田だんじり祭」の「地車力」で岸和田が自立し、再生できるか、当研究所より「ソーシャルキャピタル」の研究課題を与えられて、研究を始める。

岸和田 9 月祭礼だんじり祭は、3 日間で 50～60 万人の観客を集める全国でも有名な祭である。岸和田市制 50 周年に当たる 1972 年、記念行事として、NHK が「ふるさとの歌まつり」の番組で、岸和田 9 月祭礼だんじり祭を紹介することになり、この年の 12 月 28 日全国放映された。以来、全国的に有名になり、年々、華やかな祭になった。この 9 月祭礼だんじり祭の影に隠れているのが、岸和田 10 月祭礼だんじり祭である。しかし、ここ数年前より多数の観客を集めている場所がある。その場所は、JR 東岸和駅周辺の 10 月祭礼の地車曳行コースである。この賑わい現象の仕掛けを担ってきた岸和田ヤラカス会会員の過去の種々な経験の中に「地域力」また、「岸和田再生」のヒントがあるのではないかと考えた。

当会会員 7 名は JR 東岸和田周辺の 5 町出身者で、各町の祭礼団体である青年団、若頭、世話人、年番の各責務を経験した者である。

地車の組織はソーシャルキャピタル

地車を所有する町は、だんじり祭を中心に 1 年の行事を決定し、予算組みをする。地車を曳行するために、町民（子供会、少年団、青年団、若頭、世話人、年番）は組織されている。又その他の団体も協力する。町内のソーシャルキャピタルである。数町が集合した地域では、地車曳行の各組織の連合体ができ、それぞれの地域内で活動する。地域内のソーシャルキャピタルである。すなわち、地車を所有する町又地域には、ソーシャルキャピタルが出来上がっている。このソーシャルキャピタルを礎に JR 東岸和田駅周辺のだんじり祭に「賑わい」を創出しており、又祭礼 3 日間に約 8 万人の観光客や見物人客が来訪する。当会が過去 3 年間、岸和田ボランティアガイドの協力を得て、自主的に実施したアンケート調査によれば、約半数は市外や他府県から来訪されていることが判明した。

まさに、ここ約 10 年間に 9 月祭礼と同様に、10 月祭礼時、当地を観光地へと変貌させた。岸和田の「観光都市」への可能性を確信した。岸和田だんじり祭の地車の組織、すなわち「地車力」はソーシャルキャピタルの原動力として十分評価できる。ソーシャルキャピタルは、人と組織の輪である。長期に活動し維持しなければ、存在の価値はない。目的を持ち、継続的に活動するには、資本（資金）無しでは、団体の維持が困難である。「人」「組織」「資本」の三要素を整えることが不可欠である。

平成２１年 3 月にきしわだ都市政策研究所が廃止され、平成 21 年 4 月より岸和田市まちづくり創造研究会に新たに参加し、「新生岸和田」へ地車力＝地域力の波濤（はとう）を興させることが出来るか継続して研究することにした。

当会では、平成 21 年度は「新生岸和田」地車力の波を興すチャンスであると考えていた。その理由は 2 つある。ひとつは、当会が所属する旭・太田年番が岸和田市山手 7 地区年番で組織している岸和田十月祭礼年番の幹事をする年で、祭礼年番組織を運営する立場になる。この幹事年番の三役に当会の代表者が参加する機会を与えられた。このことは「地車力＝ソーシャルキャピタル」をより効果的に普及することができる。

もうひとつは、平成 22 年ＪＲ東岸和田駅東側で再開発されていた東岸和田駅東地区防災施設建築物（再開発ビル）が完成する。駅前は大きく変化すると同時に、当会が提唱している「だんじり祭の舞台」となる曳行街路が概成し、見物スポットの魅力が更に高まることである。

平成 21 年度は旧きしわだ都市政策研究所に参加し研究した当会の研究結果に基づいて実践・実行する。その活動内容を列記する。

1）岸和田十月祭礼７地区各年番長に当会の活動「地車力＝ソーシャルキャピタル」を理解し協力を得る

岸和田十月祭礼年番会議には、7 地区各年番長 7 名及び祭礼年番役員 4 名が参加する。会議は 4 月から 12 月まで毎月 1 回ペースで開催された。前述したように当会の代表者が役員として参加した。年番会議で当会の活動を説明し理解を得ることができた。7 地区 47 町にも理解して頂くきっかけとして、毎年岸和田十月祭礼年番が制作する案内ポスター（A1 サイズ）に 47 町の町名を記載し、また外部への情報発信の一端としてまた観光用として交通アクセスのマップを同時に印刷することに決定した。

ポスターが完成し、7 地区年番 47 町へ配布後、各年番長より自町名が記載されていることに大変喜んでいると多数報告を受けた。また交通アクセスマップも交通機関その他関係者からも評価を頂いた。岸和田十月祭礼年番では、今後この形式の仕様とすることに決定した。

2）岸和田十月祭礼７地区年番懇親会に従来の招待客、団体以外の関係者に協力を得る

懇親会は 7 月に行われた。出席者は 7 地区年番と曳行責任者、招待客は市内の関係者である。当会も参加が許され、協力させて頂いた。今後市外への情報発信が不可欠なので当会が活動する中でご協力を得ている外部の個人及び団体関係者をご招待し、岸和田十月祭礼を理解して頂くことにした。

3）ＪＲ阪和線久米田駅及び下松駅周辺にて観光客、見物人客のアンケート調査を実施

観光客見物人客のアンケート調査は、ＪＲ東岸和田駅周辺では過去２年実施した。ＪＲ阪和線沿線「久米田駅」「下松駅」周辺の動向を調査する必要がある。八木地区年番に久米田駅、南掃守地区年番に下松駅各周辺の祭礼２日間の調査に協力を得て、岸和田ボランティアガイド協会にお願いして実施した。結果は別紙の通りであった。（資料１：岸和田十月祭礼きしわだ祭観光客・見物客調査結果）。久米田駅及び下松駅周辺とも東岸和田駅周辺とよく似た数字が出た。やはり祭礼時には、観光地になっていた。

4）ＪＲ阪和線沿線の地区年番の代表者及び祭礼関係者以外の団体との協議会を立ち上げ

平成 21 年度岸和田十月祭礼だんじり祭も無事に終了することができた。この１年岸和田十月祭年番活動の中で、7 地区年番には当会の活動に理解を得ることができたと考えている。平成 22 年 2 月末、当会が主催し、今年度のＪＲ阪和線沿線年番関係者による連絡協議会を発足させる。

一方、大きな問題として祭礼時の「ゴミ」の問題がある。東岸和田駅周辺だんじり祭の２日間環境問題を研究しているボランティア団体に調査を依頼した。祭礼関係者以外の団体との協議会も同時に発足する予定である。今後「地車力＝地域力」の拡大、ソーシャルキャピタルを大いに前進させるつもりである。

5）東岸和田駅周辺整備の協議会に参加、又東岸和田駅周辺観光案内板を駅前に設置

当会が活動する中で東岸和田駅東地区防災街区整備事業組合より、ＪＲ東岸和田駅前タクシー駐車場側の工事用壁面に、当会が２年前制作したチラシの観光ミニマップを使用したいとの要望があり、再度データを要望の仕様に合わせ制作し提供させて頂いた。（資料２：岸和田十月祭礼だんじり祭ポスター）。

平成 21 年 9 月末より平成 22 年 1 月末まで約 4 カ月設置された。祭礼以後、ＪＲ東岸和田駅を下車された多数の観光客が見ておられると再開発ビル施工業者の関係者より報告を受けた。地域の住民の皆様に岸和田ヤラカス会の存在を認知して頂ける機会にもなり、整備事業組合様には感謝している。

また、平成 21 年 12 月より東岸和田駅周辺整備の景観検討委員会に年番関係者として当会代表者が参加させて頂くことになった。岸和田市東岸和田駅周辺整備課、東岸和田駅東地区防災街区整備事業組合及びディベロッパーの代表者と新しいまちづくりについて協議した。新しい道路ができ、高層建物ができ東岸和田駅東地区は大きく変化する。観光客をお迎えする「だんじりの町岸和田」の東の玄関に相応しい、又「だんじり祭地車の曳行舞台」に相応しい「まちづくり」をしたいと考えている。しかし、再開発が完成に近づくにつれ解決しなければならない問題も多々あるのも現実である。今後「地車力＝地域力」ソーシャルキャピタルの輪を広げる努力をしたい。

平成 22 年度は、前年度の実証に基づき、下記 4 点を実践した。活動内容を列記する。

1）十月祭礼年番山手で 7 地区対応の「観光案内」を製作する

平成 21 年度の十月祭礼時に JR 阪和線久米田駅及び下松駅周辺で観光客・見物客へ

のアンケート調査をした。その結果は、東岸和田駅周辺で平成 20 年アンケート調査と同様の結果であった。来訪者の約半数は市外から来られた観光客・見物人客である事実を確認できた。

十月祭礼年番は山手 7 地区バラバラで対応すべきでないので、7 地区で対応できる「観光案内」を製作した。製作することには各地区年番の了解を得た。製作資金を出資して頂くことが困難であり、当会の活動を理解して頂ける市外の大手企業及び市内の企業の出資のご協力を得て 20,000 部（A4 判 14 ページ）製作した。

観光案内のコンテンツは岸和田ボランティアガイド、和歌山大学観光学部、岸和田観光振興協会、岸和田商工会議所ほかのご協力を得ました。

2）十月祭礼だんじり祭、観光ツアーを提案

アンケート調査の数字でも表れている通り、JR 阪和線沿線の久米田駅、下松駅、東岸和田駅周辺 3 地区合わせて約 20 万人観光客、見物人客が来訪されている。残念であるが、これら観光客、見物人客の受け入れ態勢が充分できていない。

当会より下記のツアーを岸和田市内で営業されている料理店及び宿泊施設へ提案した。

A　日帰りツアー

JR 東岸和田下車→駅周辺にて「だんじり祭」見物→昼食（がんこ）→JR 東岸和田乗車

B　一泊ツアー

JR 東岸和田駅下車→駅周辺だんじり祭見物→食事・宿泊（いよやかの郷）→JR 東岸和田駅乗車。

十月祭礼時に下調べに来訪され、来年度は実行される予定とお聞きしている。

3）和歌山大学観光学部へ協力を要請

当地岸和田市及び泉州地方には、観光産業の基盤が整っていない。3 年前東岸和田周辺の観光案内を製作する際、和歌山大学岸和田サテライトの関係者の協力を得て作成した経緯が有り、今回本格的観光産業を構築するべく、和歌山大学観光学部へ「ご指導」お願いの要請を申し入れた。十月祭礼時には観光学部の関係者が東岸和田周辺だんじり祭に来訪され、今後、定期的に観光推進の取り組みについて、ご指導頂けることになった。

4)「だんじり祭」対応街路へ

全国ブランドの「岸和田だんじり祭」であるが、岸和田市内に地車曳行に対応し、又、だんじり祭の見物に相応しい「だんじり祭街路」があるだろうか。今般、東岸和田駅東地区防災街区整備事業のまちびらきが行なわれた。5 年前に当会がきしわだ都市政策研究所に市民研究員として参加し、岸和田市の関係者と話し合い、我々が提案した東岸和田駅東地区防災街区に、「だんじりの街岸和田」に相応しい街路を造ろうと申し入れた。事業関係者の多大なるご理解とご協力を得て、この要請に対応した街路が概成された。祭礼関係者は感謝している。

平成 22 年の東岸和田駅周辺だんじり祭は地車曳行時の事故は無く、観光客・見物客にもトラブルも無く、無事終了した。

実践のまとめ

きしわだ都市政策研究所で３年、岸和田市まちづくり創造研究会で２年市民研究員として、合計 5 年間参加し、「岸和田だんじり祭」の地車力（＝地域力・ソーシャルキャピタル）が岸和田を生まれ変わらせ、かつての岸和田の賑わいを再興させ、さらに岸和田の新しい基軸産業となるであろう観光産業を構築させる礎となる可能性を検証できた。

政府も将来の日本の基幹産業として観光立国を目指し、2 年前観光庁を新設した。当地岸和田は関西空港に近く、観光地の古都京都、奈良、兵庫県（姫路城）、最近世界遺産に登録された和歌山県（熊野古道）とも JR 西日本沿線にあり、地理的条件も良い。

何よりも、全国ブランドの「岸和田だんじり祭」を有する。あと、観光客への「おもてなし」「癒し」「おいしい料理」が整えば、当地は「観光都市岸和田」になれる。

観光産業のすそ野は広く、農業、漁業、商業、運輸業等地域内の経済が活性化する弾みとなる。活性化すれば、地域内の雇用の機会が増加する。観光産業は、他の産業に比べて大きな投資を必要としない。当会の 5 年間の研究で、岸和田にて観光産業の構築の可能性が充分あるとの結論である。

「新生岸和田」への提言

1） 東洋マンチェスターの栄華は過去

1980 年代末から始まったバブル経済崩壊後、日本経済が下降に向い始めた。かつては東洋のマンチェスターと言われた、日本の繊維産業の中心として泉州地方、その基幹都市岸和田の地域力も低下した。昨年平成 22 年５月には、泉州地方の地域金融を担っていた泉州銀行が、大阪の北部を中心に営業活動している池田銀行と合併し、本店が岸和田市から去っていった。泉州銀行が自立できない程、泉州地方の経済力の低下である。そして、今日の岸和田には、地域の基幹産業と言える産業が無いのが現実である。

市内の有識者は大手企業又は中小企業を誘致し、岸和田再生を主張する人がいるが、日本の産業構造は 20 年位前より大きく変化し、高価格体質や、少子高齢化が進み、マーケットが縮小する日本を避け、中国へ、東南アジア諸国へ投資を進める現状では、産業基盤のない岸和田へ投資をしてくれる企業はあるのか。企業の投資の期待はできない。　他力をもっての地域の再生は、現在の経済構造では、チャンスに巡り合う可能性は限りなく低いと認識すべきである。

2） ソーシャルキャピタルに負の側面

岸和田市は戦後の高度経済成長期までは、地域力の強い町の協同体を成していた。高度経済成長期以後、岸和田市にも都市化現象が始まる。市外より多数の住民の流入が始まり、地域社会にとけ込まないような住民も増加した。

地域社会の中で存在する団体や組織も己の利益のみを追求する風潮が増幅してい

る。5 年間の研究活動の中で、多種多様なソーシャルキャピタルの活動と接してきた。各個の利益や権利を優先した主張が目立ち、互いの連携が希薄であると思われた。この現象は、日本が不景気であるが、まだ、市中には物が豊富で平和であり、人々に危機感のなさが故に、各個の行動に表れていると考えられる。政治・経済から市民生活まで個人主義が蔓延している。この現象が日本の上から下まで「大衆個人主義」で地域力の低下に拍車をかけている。ソーシャルキャピタルの輪の絡み合いを阻害していることが残念である。

3） 一身独立して一国独立す

江戸幕府が倒れ、明治への改革期の厳しい時代に福沢諭吉が「学問のすすめ」で「一身独立として一国独立す」と訴えた。一身とは個人、独立とは自分で自分を支配し、他人を依頼する心がないことをいう。つまり「個人が独立してこそ、一国の独立も可能だ」ということである。

岸和田市の「新生」の改革にあてはめれば、「一市民独立してこそ、市の独立も可能だ」と言える。現状下では市民の理解と協力なしでは岸和田市の新生は不可能である。過去の栄華を忘れ、市民に独立心を喚起したい。

経営学者のピーター・F・ドラッカー氏の著書の中で 2015 年を境にして世界経済の現在の流れが変わり、不安定な時代へ、経済の国境がなくなり、国家意識が希薄になり、地域（都市）を中心としたネットワークの時代に変化するという。

一方国内では政府が財政難から、地域主権を進め、地域が自主的に財源を確保し、行政運営しなければならない時代がすぐそこに来ている。

府県市町村は「一身独立し、一国独立す」の体制を整える必要がある。

近い将来、日本を覆う「人口減少」「少子高齢社会」税収不足の「財政難」は岸和田市にも覆ってくる。対応を放置すれば衰退の一途の下り坂を駆け落ちて行く。そして、まさかの財政破綻に直面する可能性をすてきれない。今こそ、前述した今すぐにでもできる種々の業種へ波及効果が高く、岸和田で唯一可能性があり、市民へ富の分配を期待できる観光産業の構築へ、行政も市民も本腰をいれるべきだ。そして、「新生岸和田」へ大好きな「だんじり祭の町」の故郷を支えていく決意をしようではないか。

おわりに

「継続は力なり」。岸和田ヤラカス会は、さらなる高い視座より「新生岸和田」を完成させるため、新たな戦略をたて、又当会に賛同して頂ける同志と共に、平成 23 年 4 月 1 日改め、船出をする。

きしわだ都市政策研究所に市民研究員として参加して以来約 5 年間、当会の活動を理解し、見守って頂いた岸和田市企画調整部の職員及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

岸和田十月祭礼（だんじり祭）観光客・見物客 調査結果

平成20年度ＪＲ東岸和田駅周辺地区

調査日時
平成20年10月11日AM11～PM5
平成20年10月12日AM11～PM5

〈年代〉	平成20年度 観客総数：80,000人			平成19年度 観客総数：78,000人	
女性	男性	合計	比率	合計	比率
10代 20人	10代 22人	42	5％	21	15％
20代 81	20代 25	106	13％	38	27％
30代 85	30代 85	170	21％	18	13％
40代 88	40代 108	196	24％	13	9％
50代 69	50代 86	155	19％	17	12％
60代 43	60代 66	109	14％	23	16％
不明 18	不明 18	36	4％	11	8％
合計 404人	合計 410人	814人	100％	141人	100％

〈地域〉		合計	比率	合計	比率
岸和田市内 165人	岸和田市内 171人	336	44％	66	47％
泉　州 98	泉　州 86	184	24％	28	20％
大坂北部 53	大坂北部 38	91	12％	27	20％
他府県 71	他府県 88	159	20％	20	13％
合計 387人	合計 383人	770人	100％	141人	100％

〈交通手段〉		合計	比率	合計	比率
ＪＲ 147人	ＪＲ 177人	324	43％	52	37％
南海 10	南海 12	22	3％	12	9％
南海バス 10	南海バス 6	16	2％	7	5％
マイカー 125	マイカー 100	225	30％	27	19％
自転車 48	自転車 51	99	13％	27	19％
徒歩 27	徒歩 27	54	8％	16	11％
バイク 2	バイク 1	3	1％	0	0％
合計 369人	合計 374人	743人	100％	141人	100％

〈都道府県別来場者〉

1 兵庫	38人	8 福岡	4人	1 東京	6人
2 奈良	23	9 佐賀	2	2 兵庫	4
3 和歌山	18	9 鹿児島	2	3 京都	3
4 京都	16	9 高知	2	4 奈良	2
4 東京	16	9 三重	2	5 愛知	2
5 神奈川	14	合 計	159人	6 北海道	2
6 愛知	8			7 三重	1
6 埼玉	8	（近 畿	101人）	8 広島	1
7 滋賀	6	（その他	58人）	9 四国	1

調査場所：ＪＲ東岸和田駅前、泉州銀行東岸和田支店前（南一番踏切下）、年番本部
調　　査：岸和田十月祭礼旭・太田地区年番、OB会岸和田ヤラカス会（調査協力・岸和田ボランティアガイド）